氏　　名	**川合　康央**
学位(専攻分野)	博　　士（学術）
学位記番号	博甲第２６８号
学位授与の日付	平成 14 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規程第３条第３項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科　機能科学専攻
学位論文題目	**京都におけるシークエンス街路景観での注視を促す空間構成要素に関する基礎的研究**
審査委員	（主査） 教　授　古山　正雄 教　授　岸　　和郎　　教　授　西村　征一郎

論文内容の要旨

本論文は、第１章「序論」、第２章「注視を促す空間構成要素の評価」、第３章「時間変化による空間構成要素の注視」、第４章「空間構成要素の心理量と物理量」、第５章「実空間における空間構成要素」、第６章「結論」から構成されている。また、本論の基礎となった主な論文は、日本建築学会計画系論文集第５４２号「街路空間の代替視野画像での注視を促す空間構成要素の研究」と日本都市計画学会学術研究論文集３６号「京都市祇園地区における昼夜間時のシークエンス街路におけ注視を促す空間構成要素」であり、いずれも審査付き論文で、申請者・川合康央が筆頭著者である。

論文の主旨は、情報理論を用いて都市景観を分析し、街路景観を形成している主たる構成要素を特定しようとするものである。すなわち、視野画像の中で被験者が注目した対象／対象物の出現頻度に基づいて、たとえば祇園新橋や東山八坂地区の景観を事例として、犬矢来、駒寄せ、御簾といった伝統建築の要素へ注目度合いと電柱や電線や看板といった現代生活の要素への注目度合い、石畳や山や空といった背景への注視度合いが、視点の移動に伴って時系列的にどのように変化していくかを細かく集計している。

このような景観の客観的記述方法を提言した後、今度は被験者に、「快適性」、「景観の連続性」、「個性的」という観点から５段階評定させ、空間構成要素の評価を行った結果、たとえば祇園新橋地区では、駒寄せ、簾、石畳、鳥居、格子戸が高い評価を得ている一方、電柱や視覚の正面に入ったコンクリートの建物はきわめて評価が低いこと、また看板についてはデザインや背景との関連に依存することが示された。また、連続性という基準は、地域の安定性や成熟性を景観の側から判定するための基準として有効であり、条例や制度指定する際の地域区分や境界設定にとって有用な基礎的資料となり得るであろう。

本論文の方法を用いて、景観問題の中でも興味あるトピックスとして、夜景と昼景の比較や景観における色彩の問題、つまり注視要素の色量差の分析などを個別に調査した。すなわち視野画像内において、注目される対象物の注視度数を目的変数として、その色相、彩度、明度を説明変数とした重回帰分析をおこなった結果、明度は注視に影響を与える要因であるが、興味深いことに、暗い方が着目される傾向にあること、また、ここで対象としているような伝統的な町並みでは、彩度の差は少なく係数も小さくて、注視という点では寄与度の少ない要因であることが明らかにされた。

また、これらの調査は、主としてカメラとヴィデオから得た画像を用いておこなわれたが、こうした代替視野画像と実空間での実験を比較して両者の違いについての考察を付加した。２８㎜の広角レンズによる画像で、９０％程度の代替視野が得られること、環境への注視要因は、９０％以上が視覚によるもので、聴覚や臭覚は１割以下であった。

最後に、こうした分析をふまえて京都の景観問題に対する提言をおこなっている。

論文審査の結果の要旨

本稿は、景観という主観的な印象によって語られがちな主題に、統計や情報理論といった数理的な方法を導入することによって、論理的な根拠付けを与えようという試みである。こうした研究姿勢は、申請者の指導教官であった故・材野博司教授の研究室における蓄積に裏付けられたものであり、申請者は研究室での方法をより先鋭化しようと努力していることは評価できる。一方、審査過程の前段階では、研究の今後の展開という点に関して、景観の計数化がどのような問題に寄与できるのかが明確に見えてこないといった議論もあった。しかしながら、審査委員会では、公聴会における質疑応答や最終試験を通して、本研究は景観の特徴を客観的に記述することにとどまらず、景観に対する政策提言に結びつけられる点を確認し、本論文が博士の学位に値すると判断した。

また、今後の課題として、申請者はこの５年間、設計競技において１０回以上の受賞歴があり、彼の造形的表現力を活かして、景観調査の結果を計数化するだけでなく、図やＣＧを用いて直感的・感覚的に結果を提示する方向をも目指ざすべきであるという指導をおこなった。

本学位論文の基礎となった学術論文

川合康央、材野博司「街路空間の代替視野画像での注視を促す空間構成要素の研究」日本建築学会計画系論文集第５４２号、169 頁－174 頁（2001 年）

川合康央、古山正雄「京都市祇園地区における昼夜間時のシークエンス街路におけ注視を促す空間構成要素」日本都市計画学会学術研究論文集３６号、757 頁－762 頁（2001 年）参考論文

川合康央、材野司「町並み景観における空間認識と評価に関する研究」（１）、日本建築学会近畿支部研究報告集第３８号計画系、513 頁－516 頁（1998 年）

川合康央「町並み景観における空間認識と評価に関する研究」（４）、日本建築学会近畿支部研究報告集第４１号計画系、581 頁－584 頁（2001 年）